

地域のリサイクル情報誌

『ヴィーナス通信』



商標登録第 4882482 号

Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第84号

(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787



新年あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお祈りします

理事長 吉浦 高志

飛躍の年とも言われる卯年を迎えました。3年にも及んでいる新型コロナウイルス感染症との戦いも、ようやく出口を模索する段階になってまいりました。とは言え、感染者数は増えておりますし、今年はインフルエンザとのダブル流行も懸念されておりますので、市民生活に欠かせないエッセンシャルワーカーとして、引き続き業務を止めることのないように組合員一同、気を引き締めて参りたいと存じます。

さて、昨年は長引くコロナ禍とロシアによるウクライナ侵攻から始まった世界経済の混乱に翻弄された年でした。燃料費の高騰はもちろんですが、様々な消耗資材なども軒並み値上がりし、私たち再資源化事業者もコスト増に悩まされました。コロナ禍によるリモート化、非接触型の社会生活の浸透により、紙の使用量は減少しました。インターネット通販、オークションサイトの進展で段ボールの需要は増えたため、

家庭から発生する新聞、雑誌は減少、段ボールは微増、全体的には古紙の発生量はこの3年で減少傾向が加速しました。昨年は新聞古紙を中心に輸出価格が高騰し、古紙の相場も3年前の暴落時に比べ回復してきましたが、発生量の減少傾向と今後の人件費、燃料資材費の更なるコストアップを試算すると、慎重な経営をしていかなくてはならないと考えます。また、このところ息をひそめていた古紙の持ち去り業者の目撃情報が聞かれるようになりました。持ち去り新法の制定に向けた動きも進展しそうですが、目の前の不正行為への監視を強化し、地域の安全安心なリサイクルシステムを守ると共に、業界の信頼を確立すべく取り組んでまいります。

コロナ前に戻ってきた、そんな言葉をよく耳にします。旅行に行けるようになった、忘年会、新年会が、規模は小さくしながらでも再開されるようになってきた、そんな事情からでしょう。ただ、今後の社会経済の展開を考えていく上では、『コロナ前に戻る』のではなく、コロナで変化し、多様化した新しい社会生活環境を想定して、私たち再資源化事業者も変わっていかなくてはならないと考えます。

東多摩再資協は、新たな取扱品目の拡大とそれに向けた市場調査、新しい設備や技術の導入、再資源化事業者としてのデジタル化の推進に向けて、積極的に視察、研修を行い、地域のリサイクルシステムの更なる充実に努めて参ります。

●ヴィーナス通信84号 目次●

- P 1…『新年のご挨拶』
- P 2…直言拝聴『ガラスびんの話とこれからの新しい時代』日資連 理事(びん・ｶｯﾄ部会長) 金子竜也様
- P 4…吉浦理事長に都知事功労賞、中央会表彰、紙リサイクルセミナー
- P 5…エコプロ2022、組合まつり2023
- P 6…リサイクル掲示板『～環境にやさしい視点に、リサイクルしやすさを～』
- P 7…SDGs 持続可能な開発目標 今何を実行すればいいのか?
- P 8…安全講習会を開催、各市イベント開催報告、市民ごみ大学セミナー
- P10…官公需適格組合を更新、イベント案内、行事・行動、編集後記

青年部 第二二代部長を仰せつか

私は関東資源回収組合連合会

直言拝聴

『ガラスびんの話とこれからの新しい時代』

日本再生資源事業協同組合連合会 理事(びん・加ッ部会長)

関東資源回収組合連合会青年部 第22代部長

硝和ガラス株式会社 代表取締役社長

金子 竜也



つております金子と申します。茨城県再生資源事業協同組合所属です。

私の専門は、ガラスびんになり、なかなか、この資源物関係でもお話を聞かないのではないかと思えます。まずは、ガラスびんのお話からさせていただきます。

我々日本びんカレットリサイクル協会(カレット商)に所属している会社様は、全国で二六社ほどしかございません。この数で北海道から沖縄までの四七都道府県のガラスびんをカレット化し、ガラスびんメーカー様に納入しております。このカレット商に入ってくるものは、また新しいガラスびんになります。それ以外に多用途業社(路盤材やグラスウール等)もござります。

ガラスといってもみな同じではありません。資源物として扱えるものは「びん」だけです。家庭でよく目にするガラス製品といえば、コップ、灰皿、花瓶、哺乳瓶、窓ガラスといったところででしょうか? これらは、資源物には出せないものになります。見分け方としては、びんは必ず中身が入っています。その中身が体に触れて害がないものであれば、その容器はびんとして資源物に出すことができます。

びん以外を出せない理由としてはガラスの種類ごとに溶ける温度が違いため、混入してしまうと、溶け残り欠陥びんとなってしまうます。また、ガラスびんは、他の資源物とは違って、色ごとに集めないといけないのが特徴です。白びん、茶色びん、その他びんの最低三色分けにする必要があります。なぜなら、びんは、その色のびんにしか戻らないため、色分けが必須なのです。

ガラスびんのリサイクルに関しては、国内ですべて完結しており、海外などの情勢に影響しないのも特徴です。しかしながら、他素地容器のペットボトルの登場により、年々生産量が減ってきています。ガラスびんは、安心安全に中身を守ってくれる容器です。しかし、重い、割れる、利便性に欠けるなどの欠点もござります。大事に使用すれば何度でも使えて、もし割れてしまってもまたガラスびんに戻ることのできる、リサイクルの優等生ともいえると思います。

ガラスびんは他の容器とは違い、リデュース、リユース、リサイクルの3R全てを兼ね備えた容器となります。まずはリデュースですが、ガラスびんの厚みを薄くして軽量化することで、原料を溶かす

ためのエネルギーを節約し、燃料やCO2の排出量を削減します。また軽くなったことにより輸送効率も向上するため、環境負荷軽減にも役立っています。

次に、リユースですが、容器では唯一リユースできるのがガラスびんだけになります。昔から、このシステムがあり、代表するものとしては、ビールびん、一升びん、牛乳びんなどがあり、リターナブルびんとして繰り返し使われてきました。私も小学校低学年までは学校給食はびん牛乳でした。皆で協力して大事に運んだ記憶が今でも残っています。基本的には買ったお店に戻るのが原則ではありますが、酒屋の減少などから、市町村で収集し、資源センターで選別しているところもあります。最近では、家では缶ビール、居酒屋は生ビール、若者のビール離れ等もありびんビールはかなり減ってしまった感があります。もう家庭で一升びんを見る機会も少ないのではないのでしょうか。夏といえば、冷えたラムネびんを買うのが楽しみでした。このラムネびんもリターナブルびんなのですが、今ではこのラムネびんもなくなってきたのが現状で、さみしい気持ちになります。ですので、私が参加

丈夫なガラスびんをつくるために、 守ってほしいルールです。

あきびんはリサイクルされてガラスびんの原料に生まれ変わります。丈夫なガラスびんをつくるためには、不純物が混ざらないことが大切です。お願いします！あきびんの排出ルールを守ってください！リサイクルに出すときに、ちょっと気を付けるだけで、あきびんが無駄にならず、しっかり資源として生かされます。



1.キャップをとる

アルミキャップや王冠などが付いたままリサイクルされると、ガラスびんをつくるときに溶けずに残ってしまい、キズの原因になり強度を低下させます。必ずキャップを外してください。
※外しにくい中栓は無理に外さず、そのまま排出してください。



2.中をさっと洗う

あきびんの中身が残ったまま汚れた状態でリサイクルされると、リサイクルの工程で悪臭が発生して、非常に不衛生です。残った中身を取り除いて、中を軽くゆすいでください。
※はがしにくいラベルは無理にはがさず、そのまま排出してください。

3.あきびん以外のものを混ぜない

ガラス製の鍋や皿などの耐熱ガラス、茶碗やコーヒーカップなどの陶磁器類は、びんガラスと似たような材質ですが、あきびんに混ぜないでください。ガラスびんの強度を低下させ、欠陥びんの原因になります。とくに耐熱ガラスが混ざってしまうと、取り除くのが大変困難です。



する懇親会はすべて、「一杯目はびんビールでお願いします」と営業しております。
最後に本職のリサイクルについてです。使い終わったガラスびんは、カレット工場で砕かれて、新しいガラスびんの原料やその他用途に再利用されています。カレットを使用することにより、天然資源の節約、原料を溶かす熱量や時間も短縮され省エネルギーになります。現在では新しいガラスびんの主原料がカレットのため、品質を良くする必要があります。集め方は各自自治体によって異なりますので、住んでいる市町村に確認頂

きたいのですが、排出方法の基本は、キャップを取る。中をサッと洗う。びん以外の物を混ぜない、です。そして、割れないように収集センターできれいに分別されれば、残渣にもならず、すべてリサイクルされることとなります。我々カレット商も、このカレットがびんの主原料となっているため品質向上を求められていて、機械化をし、異物が混ざらないように努力しています。
これを読んで頂いている皆様も、買い物の際はぜひガラスびんも候補に入れていただきたいのと排出の際は、異物を混入しないようにしていただくと幸いです。

では次に組合青年部についてです。
私が所属する茨城県再生資源事業協同組合青年部も若手の減少なのか、世代交代してきてなのか、親会と青年部がほぼ同じ顔ぶれになってきました。関東の他の青年部も同様なことを言っていたのを聞きました。しかし、団体は親会も青年部

も必要だと最近特に感じています。親会の世代ではよかった案件や内容では、今の世代では通用しない案件など様々に変化をきています。そういったものに青年部は敏感になり、共有しながら、対応していかなければならないものだと思います。あくまで個人の考えではありますが、今まで専ら物で通っていたものが、通用しなくなってきたと思います。私の感じでは昔から専ら物は問題がなくリサイクルされていたので、議論の対象になかったのだと思います。後から出てきたペットや廃棄物に関して問題が起り、それに対して議論された中に、後付けでこの専ら物も取り込まれてしまった感が私にはあります。そして一言目には決まったものは変えられない、の一点張りです。そして、リサイクルで取引されるものは価値があるから有価で取引される、いらぬものは廃棄なので費用が掛かり廃棄物で取引とされる、という概念があり、何でもかんでもこの定義が基本になってしまっているように思えます。そしてこれを変えてもらうにはと聞くと、一件のためだけにこれは聞いたときに、私はとても団体というものがすごく大事であ

るということを身に染みてわかりました。地元の青年部団体や、業界の団体集まりなど今までは、なんとなく参加していたように思いますが、これをきっかけに私自身も向き合い方が変わってきました。今では、情報社会のため、インターネットを使用すれば何でもわかる時代になっています。しかしそれも、調べる内容が分からなければ何も始まりません。その情報を知るには、やはり色々な方とお会いして、会話をしてその中に気づきの部分があるのだと思います。そしてその機会を新型コロナウイルスが奪いました。テレワークも手法の一つとしていい部分がありますが、人はやはり顔を合わせて会話することが重要なのだと思います。これからはwithコロナの時代が少しずつ始まってきています。またSDGsも学校で習うなど我々の中に浸透してきています。となれば、我々の扱っている資源物をもっと注目されていくはずで、新たな時代に向けて、我々青年部がより一層時代の変化に敏感にとらえ、どの形が今後の我々にとって最適か考え、情報を共有し、一層の業界発展の一助となるように活動して参ります。今後とも宜しくお願い致します。

吉浦理事長が東京都功勞者表彰を受賞しました。

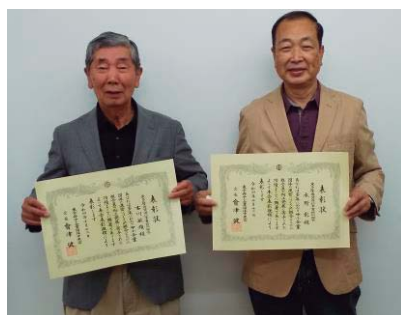
この度、公益社団法人東京都リサイクル事業協会の推薦により、当組合吉浦理事長が令和四年度東京都功勞者表彰（環境功勞）を受賞し、去る十月三日（月）東京都庁にて行われた表彰式に参加しました。おめでとうございました。

吉浦理事長は、日本再生資源事業協同組合連合会理事（平成二四年〜現在、平成二八年〜令和二年は副会長）、関東資源回収組合連合会会長（平成二八年〜令和二年）、東京都資源回収事業協同組合理事長（平成二四年〜平成二八年）、東リ協会理事（平成二四年〜現在）など、業界の要職を歴任し、古紙持ち去り根絶対策車両識別ステッカー制度の導入、GPSの活用による追跡調査等を実施、古紙持ち去り問題の解決に精力的に取り組む、業界の地位向上及び日本の資源循環型構築に大きな貢献を果たした功績が認められたものです。引き続き、東資協理事相談役、東リ協会理事、日資連理事として益々のご活躍を祈念します。



古川監事、水野理事、東京都中央会から表彰を受ける

去る令和四年十月十二日に、銀座ブロッサムにて東京都中小企業団体中央会主催の表彰式が執り行われ、当組合の監事 古川敏雄氏と理事 水野彰氏が、長年の組合活動における功績を認められ東京都中小企業団体中央会会長より表彰されました。古川監事、水野理事、おめでとうございました。



表彰を受けた古川監事（左）と水野理事（右）

紙リサイクルセミナーを聴講

去る十月十三日、公益財団法人古紙再生促進センターが主催する令和四年度『紙リサイクルセミナー』が星稜会館にて開催、YouTubeでのLIVE配信を聴講しました。

冒頭、長谷川一郎代表理事からは、令和三年度の古紙回収率が八〇%、古紙利用率が六五・九%と高水準であり、資源有効利用促進法が令和七年度までの目標として掲げた利用率六五%に到達しているものの、さらなる利用率向上に努めていくこと、紙リサイクルが持続可能な資源の有効利用を通してSDGsという大きな取り組みにつながるという認識をもつて広報活動を行っていくこと、令和六年度に創立五十周年の節目を迎えるにあたって、時代を見据えた中長期的な課題整理を段階的に行っていくと挨拶がありました。

講演は三部構成となっており、第一講は、同センター業務部技術担当部長 甲斐和生氏より『紙リサイクルとSDGs』をテーマに、センターの取り組みやアンケートの集計結果報告がなされました。第二講は、公益財団法人地球環境戦略研究機関主任研究員 栗生木千佳氏より『サーキュラーエコノ



長谷川代表理事挨拶

輸出にはマイナスイ要因になりま す。今後も混んとした世界情勢や紙・板紙市場、古紙市況の動向を注視していきたいと思いま す。（TKO）

ミー・グローバルトレンドのインパクト』をテーマに、欧州が先行するサーキュラーエコノミーの解説から日本が取り組む上での課題について説明されました。第三講は、国際紙パルプ商事(株)グローバルビジネス統轄本部海外営業一部部長 高瀬誠重氏『世界の紙・板紙の市場動向について』説明されました。二〇二四年までに東南アジアを中心に世界各国で段ボール原紙マシンの増設が進められており、段原紙の供給過剰、古紙市況への影響が懸念されていることや、ロシア・ウクライナ侵攻による原料コストの深刻化が心配ですが、中長期的には宅配需要の増加、脱プラによる紙化、人口増加で消費増となり需給が安定していくことを期待することでした。実際、年末より段ボールの輸出価格、一部国内価格も下がってきています。円安から円高に振れていることも

エコプロ2022に

行って来ました

去る十二月七日九日に、東京ビッグサイトで開催されたSDGsウィークEXPO2022に行つてまいりました。およそ五百の企業や団体等が出展し、環境、リサイクルに関する学術研究や新素材、新技術などの発表、展示を行っていました。SDGs、サーキュラーエコノミー、エンカル消費などのキーワードがどの展示でも見られました。次の予定があり、短い時間でしたが回つていて面白そうなので紹介したいと思います。



①あのキャラクターもSDGsの普及に貢献

日本一有名な猫のキャラクターも企業や団体のSDGsに関する取り組みを広めるのに役買つてくれるそうです。SDGs仕様の十七色の特別な衣装も身に付けていました。このイベントは



取り組みを広めるのに役買つてくれるそうです。SDGs仕様の十七色の特別な衣装も身に付けていました。このイベントは

事業者だけでなく小学生から高校生まで学校単位で学生の皆さんの来場が多く、こちらのブースでも盛り上がりがありました。

②X世代が上がる、あの車も

八十年代に大ヒットした映画に出てくるタイムマシーンになった車、デロリアンも展示されていました。ニュースにもなっていました。



たが、回収した古着から作ったバイオ燃料で走らせるといプロジェクトに使用された車両だそうです。

この会社は、古着をケミカルリサイクルして再生ポリエステルを作り、新しい服として販売しているそうです。

③その場で再生紙にリサイクル

左の写真の大型の機械は、使用済みのコピー用紙を水を使わずに再生紙にリサイクルできます。再生された紙を頂きましたが、手触りも紙質も問題ありません。



左の写真の大型の機械は、使用済みのコピー用紙を水を使わずに再生紙にリサイクルできます。再生された紙を頂きましたが、手触りも紙質も問題ありません。

せんでした。溶解処理の機密性、話題性は素晴らしいですが、処理能力、コストパフォーマンスを考えると私たち再生事業者が導入するというのは大企業のPR用かなと思います。

その他、脱プラスチック、ペーパーレスの流れの中で、様々な新素材、複合素材が展示されていました。そのお話は次のページのリサイクル掲示板に掲載したいと思います。いずれにしても、参加されている団体の新たな取り組みには、穿った見方をしてしまう内容もありましたが、SDGsになぞらえたストーリー作り、一般の方に受け入れられる見せ方は、そもそもこういった展示会にはあまり出展していない私たち再資源化事業者も見習わないといけないですね。(TKO)

組合まつり in TOKYO

去る一月十八十九日、東京国際フォーラムで開催された、東京都中小企業団体中央会が主催する組合まつり in TOKYO2023に行つてまいりました。

今年、一三〇の組合、団体が出展し、それぞれの団体の組織や活動紹介、パンフレットやノベルティグッズの配布、取り扱っている商品などの物販を行っていました。



た。東京都中小企業団体中央会の小野塚事務局次長と入口でお会いしましたが、『来年は東資協さんでも是非ブース出展をご検討下さい』とお声がけ頂きました。エコプロでも感じた通り、自分たちの商売をどう見せるか、ストーリーを作るか、そんなことも考えながら巡回させて頂きました。試食や体験、実物展示があるとついブースに引き込まれてしまいますね。資料や物販品を両手に抱えて帰ってきました。一般の方も自由に



に入れるイベントです。来年は皆様も是非。上の写真は赤帽のキャラクターあかぼうとの二ショットです。(TKO)

リサイクル掲示板

～環境にやさしい視点に、リサイクルしやすさを～

今回、エコプロ2022を訪れた際、環境にやさしいとPRしている新素材や複合素材を販売する会社が多数出展されていました。廃材を一部配合して出来た新素材、脱プラスチック、ペーパーレスに寄与する新素材などなど。一面を見れば素晴らしい商品だと思うものもあつたのですが、どこも『リサイクル』の観点が見えない気がしました。今回は、リサイクル目線で環境にやさしいことを主張してみたいと思います。

① 環境にやさしい複合素材、新素材?

以前にも本誌で取り上げたことのある、紙やプラスチックよりも丈夫、製造過程で水をあまり使わない、最近CMでも見かける石灰石由来の新素材の会社や、古紙を原料にした緩衝材の会社も出店していたので、名刺交換をして担当者の方とお話してきました。

石灰石由来の新素材は、紙やプラスチックの代替素材として売り出しており、実際に製品を見せてもらいました。手触りは少し違いますが、見た目には紙やプラと区別が付きません。但し、古紙やプラスチックとしてはもちろんリサイクルが出来ません。

古紙を原料に配合した緩衝材も、もちろん、古紙としてリサイクルは出来ません。見た目は発泡性のプラスチックなのですが、古紙を配合しており単一素材ではないため、単純にプラスチックとしてリサイクルすることも出来ません。



石灰性由来素材のスプレーボトル（左）、プラスチックと見分けられません。古紙を含んだ緩衝材（右）。それぞれ頂いたパンフレットに載っているものを写真で撮りました。

② 古紙や廃プラとしてリサイクル出来ない代替素材、複合素材には、リサイクル出来ない旨を明記して欲しい!

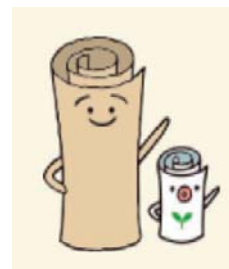
紙の代替素材であるストーンペーパーは、それだけを集めればリサイクル出来ると主張しているのですが、紙のようで紙ではないストーンペーパーを分別するのは私たち専門家でも無理です。複合素材には、『古紙を〇%使用しています』などと書かれているため、古紙としてリサイクルに出せると勘違いされる方もいます。

リサイクルを阻害したくないのであれば、『この素材は紙のように見えますが紙ではないので古紙としてはリサイクル出来ません』とか、『この素材は古紙を使っていますが、古紙としてリサイクル出来ません』と明記して下さいとお願いしてきました。

ちなみに、組合まつりで紹介されていたバナナペーパー（成長の早いバナナの茎から作られた紙）は、製紙原料としてリサイクルできるそうです。まさにSDGs!

③ リサイクルの優等生、紙の有効活用、古紙のリサイクル推進を!

リサイクラーの立場からすれば、**単一素材で何度でもリサイクル出来ること、既存のリサイクルルートに載せて循環出来ることも環境にやさしい製品の大事なポイント**だと考えます。技術的にはリサイクル出来るとしても、そこに至るまでのルール、サプライチェーン、インフラが整っていないと簡単にはリサイクル出来ません。こうしたリサイクルしづらい新素材が次々に生みだされることのないように私達も声を上げていきたいと思えます。



そのような中で、やはり市民の皆様が見た目で簡単に分別が出来て、日常的に排出出来るリサイクルルートが確立されている『紙』はやはりリサイクルの優等生であり、環境にやさしい素材なのではと考えます。無駄遣いは良くありませんが、必要なところに必要な紙を使うことで、資源の循環も生まれます。紙の有効利用、古紙のリサイクルの推進を改めて見直してみても如何でしょうか?

SDGs (持続可能な開発目標)

今何を実行すればいいのか？

◎**当組合は**、SDGsの理念や方向性をとりいれた環境運動を推進する宣言をしている。また国の官公需適格組合の認定も受け、更なる環境負荷の少ない循環システムの確立に取り組んでいる。

地域内の再生資源類の多くは、組合が回収加工し、主に国内産業の原材料に利用されて、循環社会推進に貢献している。

しかし近年の異常気象・感染症蔓延・騒然とした世界情勢などを見ると、SDGsのゴールが年々遠のいて行くことを懸念しないではいられない。

◎**SDGsは**、2015年国連サミットにおいて加盟国全会一致で採択された。十七のゴールとターゲット169を掲げ、更に232の指標も策定し、達成目途を2030年と定めている。

- 内容は、**目標1.貧困、2.飢餓、3.保健、4.教育、5.ジェンダー、6.水・衛生、7.エネルギー、8.経済成長と雇用、9.インフラ・産業化・イノベーション、10.不平等、11.持続可能な都市、12.持続可能な消費と生産、13.気候変動、14.海洋**

資源、15.陸上資源、16.平和、17.グローバルパートナーシップと多様なゴールを目指している。貧困を無くし地球を保護し、誰一人取り残さず平和を享受できる世界作り

に普遍的な行動を呼びかけている。中でも**飢餓や気候変動対策**が喫緊の課題で、その対応は世界各国が全く出遅れている。

このような時に、穏やかな田園都市の住宅や駅・学校・インフラ施設を、突然砲撃で破壊する行為は、恨み以外に何をしようとしているのだろうか。国連の機能不全も改めて鮮明になった。

またそれを理由に、石炭火力や原子力発電の再稼働、軍事力増強など、我が国をはじめ逆方向に舵を切り出した国も多い。

そして、地球の終末時計は、残り時間あと90秒を指した。
◎**COP27が**、昨年エジプトで開かれ、途上国からは貧困や温暖化対策を強く叫ばれた。
アフリカ東部では2200万人が深刻な飢餓状態となっている。インド洋の島国は、海に沈む国の恐れしさを訴え、パキスタンの首相は「国土の1/3が水没した洪水は人災だ。」と絶叫するなど、先進国大の責任を迫及する声は益々高まってきた。

会議最終日になって何とか「途上国の損失と被害に対する基金」を新たに設立したが、具体策は先送りされた。

◎**産業界は**、独自の技術開発やシステムの構築で努力している。日経新聞の調査では、上場企業など886社のうち53%の企業がCO2ゼロ宣言をしている。

しかし、その内容や本気度には差があるようだ。
◎**研究機関等の技術革新**には目覚ましいものがあり期待される。

二酸化炭素コンクリートは、一昨年東京大学大学院の野口貴文教授が、大気中のCO2と水を原料としたコンクリートの開発に世界で初めて成功している。

排出削減と言うよりは、すでに排出済みのCO2を固形化利用する画期的なもので、年間十億トンのCO2削減も可能とか？ゼネコン各社も開発に乗り出した。
ペロブスカイト太陽電池が二年後には実用化出来ると聞いた。

桐蔭横浜大学の宮坂教授らが開発したもので、ヨウ素を原料とし、レアメタルは必要としない。薄い膜状でどんな場所にも貼って使用できる。ヨウ素は日本に豊富にあり、シリコン太陽電池の20〜30%の製造費で済み、設

置費も安価と言う。

ビル外壁にも使え大都市が巨大発電所になるかも知れない。

自動車の屋根にも使える。国内の全自動車EV車になれば、原発10基分の電気が必要とも言われているから急を要する話だ。

グリーンイノベーション基金2兆円で支援中との事だが、海外でも実用化を急いでいる。

◎**日本人一人当たりのCO2排出量は**、年平均8トンと言う。気温上昇を1.5度以内に抑えるためには、2030年までに一人当たり3トン、50年には1トンまで減らす必要がある。

今実施している節電やゴミの分別・無駄遣いの削減などでは殆ど減少しないようだ。

市民生活にも、さらなる工夫と痛みが、そして経済活動も見直さなければ達成できない目標だ。

だが、レジ袋一枚を断って買った物をしている一方で、個々に包装された宅配便が、昨年は五〇億個も配られたとの事実もある。
平穏な環境と平和な日常を持続可能にすることは万人の望みで、それがSDGsの実現だと思ふ。
その為の技術革新や市民の闘いに、武器は必要ない。先ず軍事費削減の議論が必要では：(顧問K)

令和四年回収車両運転者安全講習会をLIVE配信で開催

去る十一月二五日、回収車両運転者安全講習会が開催されました。コロナ禍での行動規制もなかったため、当初はリアルでの開催を進めておりましたが、徐々に感染者数が増えているという状況から、急遽LIVE配信のみに切り替えました。オンライン生配信という形をとるため、参加者の受講状況の確認が難しいので、穴埋め式の確認シートを作成し、答えと感想を書いてもらうことで参加確認としました。

また、会場にお越し頂く予定だったご来賓の皆様からはメッセージという形で事前に頂戴し、司会が読み上げました。東村山市環境資源循環部ごみ減量推進課課長 武田源太郎様、東久留米市環境安全部ごみ減量対策課課長 後藤寿之様、西東京市みどり環境部ごみ減量推進課課長 菱川勝也様より頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。



吉浦理事長から感染再拡大の状況の中、回収作業に従事して頂いていることへの感謝とねぎらいの挨拶、紺野専務理事より安全講習会の趣旨説明と講師紹介の後、いすゞ自動車首都圏株式会社稼働サポート部小野寺貴宏様に講師を務めて頂き、『車両の日常点検』をテーマに講習会がはじまりました。今回のテーマは、資源回収責任者会議内で、各社の責任者が回収業務を行う上で必要なことは何かを話し合い決定いたしました。

まずは、日常点検作業に関するDVDを視聴後、座学として点検のポイントを詳しく説明して頂きました。最後に小畑副理事長の講評及び閉会の辞をもって安全講習会は閉会しました。

リサイクルセンター

構内作業員安全講習会

令和四年十一月二四日(木)に、日本管財環境サービス・東多摩再資源化事業協同組合共同企業体として安全講習会を行いました。当日出勤日ではない者がいるため、オンラインでの限定ライブ配信も併用で行い、後日アーカイブでも再受講が出来るようにしました。当組合紺野専務理事の司会進行の元、福田業務委員長の開会の辞、安全行動宣言唱和に始まり、JV代表として日本管財環境サービス東京支店勝田課長からご挨拶があった後、来賓としてご臨席頂いた小平市環境部資源循環課課長馬場健悟様からご挨拶を頂戴しました。なお、石橋主任にもご臨席を頂き



久しぶりに全員での講習会が出来ました

ました。ありがとうございました。講義内容は、組織に措いてのコミュニケーションの重要性と題し、講師の篤志館代表雨間けい子氏より講義が行われました。職場でのコミュニケーションは、人間関係を良好にし、業務を円滑に進めて行くために必要不可欠です。不足すると、仕事上の情報交換もうまくいかず業務に支障をきたし、心の健康にも影響を与えかねないという事でした。人間関係を円滑にする為の一つの手段として、心の知能指数を高める事の必要性を上げておりました。この指数には、自分の感情の制御する力、他人の気持ちを感じ取る力、苦しい時でも自分を励ます力が大事だという事でした。

これらの能力が高いと、自分を理解し相手を理解する事ができ、気持ちや行動をコントロールして、人間関係を上手に構築し維持する事が出来るようです。仲間に信頼して話を聴いてもらうには、まず自分が相手を信頼する事から始めましょう。

今回の講習会を終え、更に職場が明るく誰もが居心地の良い場所になるようにしたいと思えました。

加藤 忍

こだいら環境フェスティバル
2022に参加

去る九月十日(土)、開催地は、中央公園及びふれあい下水道館にて午前十時から午後十四時まで『こだいら環境フェスティバル2022』が開催されました。

こだいら環境フェスティバルは、環境に対する市民の意識啓発を目的とし、市民・事業者・市が一体となった環境のイベントです。環境関連団体や市内企業による取組みの展示、体験教室の他、飲食物販売などもあり、一日楽しく小平の環境に触れることができました。当組合では、牛乳パックとトイレットロールの交換、小物雑貨類の無料回収、雑がみ袋の配布を行いました。

当日は晴天で残暑厳しかったですが多くの来場者があり盛況の中、無事終了いたしました。(高橋)



中央公園での開催は3年ぶりとなりました。

東村山市エコライフフェア

去る十一月二十九日(火)〜十二月四日(日)、東村山市立中央公民館一階ホールにて同イベントが開催されました。昨年までのリサイクルフェアと環境フェアを合同で開催することになり名称が変わりました。

コロナ禍での開催ということで、物販ブースやフリーマーケットは中止とし、昨年同様パネル展示を中心に行われました。当組合では、『雑がみの回収拡大』をテーマに、古紙の分別や禁忌品に関するパネルと、雑がみのいろいろな出し方を実際に展示するとともに、ヴィーナス通信や古紙センターのパネルの配布を行いました。

六日間の開催期間中、実行委員の持ち回りで案内係にいたしましたため、組合でも二日間会場内の案内をさ



3年連続のパネル展示となりました。今年こそは。

せて頂きました。その中でお話しした市民の方からは、段ボールに雑がみを入れて出してしまつていた、紙袋が無くてどうやって出せばいいか分からなかったという声が聞かれました。

次こそは、通常通りの開催に戻って雑貨類の回収や分別ゲームなど市民の皆様と対面でのふれあいが出て来ることを期待します。(福田)

市民ごみ大学セミナーに参加

昨年十一月十九日(土)、小金井市市民会館萌え木ホール三階で、ごみ環境ビジョン21が主催する同セミナーに参加してきました。

今回の講師をされていた帝京大学文学部社会学科教授の渡辺浩平さんは、当組合吉浦理事長も委員として委嘱を受けている小平市廃棄物減量等推進審議会の副会長を務められており、そのご縁もあってヴィーナス通信八二号直言拝聴にもご寄稿を頂いていますので、是非ご覧下さい。

今回の講演会のテーマは『食品廃棄をいかに把握し、削減につなげるか』ということで、この分野を専門的に研究されている渡辺さんのお話は、私たちごみ減量に取り組む事業者としても、また生活者としても分かりやすく、大変参

研究者は食品廃棄削減に向けて何をしています？
食品廃棄をいかに把握し、削減につなげるか

2022年11月19日(土) 13:30~16:00

講師：渡辺浩平さん、帝京大学社会学科教授

「食品ロス」って何でしょう？
「食品ロス」は、食料生産から消費までの過程で、食べられずに捨てられる食品のことです。食べ残しや賞味期限切れ、加工食品の廃棄などが主な原因です。食品ロスを削減することは、食料の無駄を減らし、環境負荷を軽減するだけでなく、食料の安定供給にも貢献します。

このセミナーでは、食品ロスの現状や削減の取り組みについて、渡辺浩平先生から詳しくお話を伺えます。また、食品ロスの削減に向けた実践的な取り組みについても学びます。

申し込み：無料
会場：小平市市民会館 萌え木ホール 3階
定員：100名
申込：100円
キャンセル：1000円

ごみ・環境ビジョン21
〒184-8613 東京都小平市南町4-11-11 5階
TEL: 042-393-3021 (受付時間10:00~17:00)
FAX: 042-393-3028
e-mail: goken@genkai21.com
HP: https://genkai21.com/

考になりました。二〇三〇年度までの半減目標はハードルが高いですが、私も出来ることを取り組んでいきたいと思っています。(小畑)

トイレットペーパー
「フューメラン」
(65m巻き・100個入り)
1ケース3,200円(消費税別・配達料込み)です。
※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。
小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市
ご注文は当組合までお願いします。
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

官公需適格組合を更新しました

当組合では、平成十七年より官公需適格組合の認証を受けています。この度、審査を通過し令和五年一月五日付で更新をさせて頂きました。

官公需適格組合とは、官公需の受注に対して特に意欲的であり、かつ受注した契約は、十分に責任を持って履行できる経営基盤が整備されている組合であることを中小企業庁（経済産業局）が証明する制度です。



官公需適格組合
KAN-KOU-SU TAKAKU KUMAI

引き続き、市民の皆様の信頼と負託の元、安心安全な事業の完全施行を目指してまいります。

●イベントのご案内●

- ①小平市リサイクルきゃらばん
令和5年2月21日(火)13:30~
@いなげや小平小川橋店
- ②第30回TAMAとことん討論会
令和5年3月4日(土)12:30~
@アウラホール及びオンライン配信
※当組合紺野専務理事が事例発表及びパネリスト参加します。

行事・行動

【令和四年 九月】

- 五日：小平RC責任者会議(Web)
 - 七日：東村山市RF実行委員会
 - 九日：東資協理事会(Web)
 - 十日：小平環境フェスティバル
 - 十二日：定例理事会(Web会議)
 - 十四日：小平RC関連JV会議(Web)
 - 十七日：日資連理事会(Web)
 - 二十六日：業務・集団回収委員会(Web)
- 【十月】
- 四日：小平RC責任者会議(Web)
 - 十一日：西東京市共同受注検査
：小平RC関連JV会議(Web)
 - 十四日：東資協理事会(Web)
 - 十七日：定例理事会(Web会議)
 - 十四日：古紙持去問題意見交換会(Web)
 - 二四日：業務・集団回収委員会(Web)
 - 二五日：小平市リサイクルきゃらばん

【十一月】

- 二日：小平RC責任者会議(Web)
- 九日：東村山市RF実行委員会
- 十一日：東資協理事会(Web)
- 十四日：定例理事会(Web会議)
- 十八日：小平RC関連JV会議(Web)
- 十九日：日資連理事会(Web)
- 二二日：小平市リサイクルきゃらばん
- 二四日：小平RC安全講習会
- 二五日：回収車両運転者安全講習会(LIVE配信)
- 二八日：業務・集団回収委員会(Web)

二九日(十二月四日)

：東村山市エコライフフェア

【十二月】

- 五日：小平RC責任者会議(Web)
 - 七日：東村山市EF実行委員会
：エコプロダクツ2002(九日)
 - 九日：小平RC関連JV会議(Web)
 - ：東資協理事会(Web)
 - 十二日：東大和市環境市民の集い実行委員会
：財務委員会(Web会議)
 - ：定例理事会(Web会議)
 - 十九日：業務・集団回収委員会(Web)
 - 二一日：小平市廃棄物減量審
三十日：仕事納め
- 【令和五年 一月】
- 四日：仕事始め
 - 五日：各市挨拶回り
 - 六日：古紙センター新年互例会
 - 九日：小平RC責任者会議(Web)
 - 十一日：小平RC関連JV会議(Web)
 - 十三日：東リ協合理事会(Web)
 - ：東資協理事会(Web)
 - 十八日：東大和市廃棄物減量審
：組合まつり(十九日)
 - 二一日：日資連理事会(Web)
 - 二三日：東京都庁年始挨拶回り
 - 二五日：回収車両責任者意見交換会
 - 二六日：東久留米市共同受注検査
 - 二七日：東久留米市共同受注検査
：業務・集団回収委員会
：組合新年会
 - 三十日：東村山市総合防災訓練調整会

編集後記

直言拝聴をご寄稿頂いた金子様、ありがとうございます。再生資源を取り扱う業界の中でも、びん・カレットを取り扱っている事業者は限られているので、貴重な情報ありがとうございます。また、コロナ禍で青年部もなかなか活動が難しいと思いますが、若い英知と情熱で現状を打破して行って頂きたいと、十年前の元関資連青年部長としては思っています。応援しています。

さて、行動規制はなくなったものの、感染者数が増えているというところで、エッセンシャルワーカーとしては気の抜けない日々が続いています。特に今年はいんフルエンザも流行すると言われていまして、会社としては忘年会も新年会もまだまだお預けで、感染症対策も緩めずに業務に励みます。一方、業界関係では、新年会を再開するところが増えていきます。資源物の発生減少、回収コストの増大など、様々な課題を抱えている中で、業界内外の情報交換や団結が不可欠と考えておりますので、積極的に参加して、地域のリサイクルの推進に寄与して参りたいと存じますので、本年もどうぞ宜しくお願い致します。(TKO)